

## 令和2年度 第1回 清瀬市男女共同参画センター運営委員会 議事録

日時:令和2年8月5日(水) 午後2時~4時

会場:男女共同参画センター 会議室

委員出席:11名

桑山委員長、吉川委員、菊池委員、渡邊委員、上木原委員、木村委員、  
今村委員、田村委員、池田委員、土屋委員、松山委員

委員欠席:1名

小野委員

事務局:原口センター長、高田係長、福田支援員

センター長より挨拶

4月から着任した。以前、この部署で係長の経験がある。コロナの影響で市の事業、アイレックの事業が縮小されているところだが今後の見通しもはっきりしない中、皆さんとアイレックの運営をしたいと思っている。是非よろしく願いしたい。

各委員自己紹介・委員長、副委員長決定

立候補により前年度に引き続き桑山委員が委員長に就任。また副委員長には吉川委員が他薦によって就任した。

議題

【平成31年4月~令和2年3月までの事業報告】

事務局より内容説明を行った。事務報告参照

【令和2年4月~令和3年3月までの事業予定、報告】

事務局より内容説明を行った。事務報告参照

委員長

事業報告について意見はあるか。コロナの影響で決まっていないことが多い。感染者の増加等の要因で予定が変わることがある。

センター長

緊急事態宣言が発出された中、センターも一時期、休館を余儀なくされたが、ようやく解除され委員会を開くことが出来た。しかしながらイベント等については国や都のガイドラインに沿った形で、例えば定員半数での開催等を遵守して行っている。そのような中、各サポーターやまつり実行委員会等で開催の有無から議

論してもらっている。集まりができなかった関係でアイレックまつりは通常の 10 月開催でなく来年 1 月開催予定となった。それ以外の予定もコロナの対策を十分に講じながら開催の方向性を検討している。一方的に事務局で中止等を判断するのではなく市民と検討しながら進めるのがアイレックのやり方だと思っている。また、中止を判断した予算については来年に繰り越されることはない。来年については来年の歳入、歳出のバランスを判断した上で予算化される。

#### 委員

運営委員会が年一回の開催であるのはいかがなものか。先日の男女平等推進委員会でも話が出たし、実際、初対面の委員も多く、初着任の委員も多い中、充実した議論が進むとも思えない。複数回の開催は必須である。

#### 委員

相談事業の件数について減少しているとの説明があったがマスコミの報道と逆行しているのではないか。

#### センター長

市の相談件数は減少しているが国の対策も進み新たな相談制度の周知が推進されている。都内男女共同参画関連の課長会の話題にもあったが市部で件数が減少しているのは共通しているようだ。内閣府で担当している DV+(DVプラス)という相談制度についてはある程度の件数があったと聞いている。来所相談が困難な方には電話相談も勧めている。

#### 委員

緊急事態宣言中、学校の休校等で加害者、被害者が同居している中で相談につながらないことを危惧している。

#### センター長

そのようなケースも想定している。同居の場合、電話相談もままならない方については、自治体共通の課題と捉えて解決策を検討していきたい。

#### 【地方創生推進交付金事業について】

事務局より内容説明を行った。

#### 【分科会活動報告】

委員長より去年までの分科会の活動について説明を行った。

#### 委員

以前に子どものころから男女平等を学ぶ機会をつくるため、男女平等推進条例を小学生にも学んでもらうように『子どものためのガイドブック』を作成した。出前講座の人権かるたの契機にもなった。内容については見直しが必要な時期にきている。

#### 【予算について】

事務局より予算の内容説明を行った。

#### 委員長

運営委員会の開催回数については前回の委員会でも議題としてあがった。事務局も複数回の開催で予算要求を行ったが結論としては年一回の開催とされている経過がある。先程報告したように今回は三つテーマを決めて分科会として活動を行った。全体の開催回数についての意見を求めたい。

#### 委員

アイレックの成り立ちとして運営委員会は大事なもので、アイレックの方向性を決めるこの委員会が一回で済むはずがない。同意があるのならば市に対して声をあげて行くべきだ。

#### 委員

清瀬の人間ではないのでアイレックの成り立ちはわからないが、そういったことをわかった上で回数を判断したい。

#### 委員

ここで委員会があって、それで一年間が終わってしまったら何のために集まったのか訳がわからない。ただ、お忙しい委員が頻繁に集まることはできないので分科会等を活用すべきではないか。

#### 委員長

全ての委員に声掛けはするが分科会となると全員出席は望めない。

#### 委員

問題意識のある委員が集まる形で良いのではないか。この委員会の中で新しく問題に取り組んでいく集まりを作るべきだ。

## 委員

事業を行っているセンターについては運営委員会という形で市民の方々の意見を反映させていただいている。その形が形骸化しているのではないかとの意見があったので見直しを行うために一度、全市的に一度の開催とした。中には一回のみの開催で済んでいる運営委員会もあるがアイレックの運営委員会については一回の開催にした当初からいろいろなご意見を頂戴しているので予算を担当するものとして運営委員会の必要性を訴えている。実績として分科会がたちあがる等で実績ができれば予算交渉の中で必要性をいうことができる要素になるのではないかと。分科会も中身についてしっかり説明できないと予算がつかないので皆さんの声を聞きながら年に何回必要なのか考えて行きたい。前回の分科会から広報チームがたちあがったように運営委員会自体で具体的に活動をするのではなく大きな目でアイレックの活動全体を見てもらう。活動についての提案をして頂く場だと考えている。意見を具現化するのはサポーター等で動いてもらうか、アイレックで事業化する方向で考えている。具体的に運営委員会を二回やったら何をするのか三回やったら何をするのか、まで含んで考えると予算の時に要求しやすい。

## 委員

一回だけの開催であると報告のみで終わってしまうようなので、もう一回開催されても良いと思う。特に地方創生交付金事業については額も大きく、テレワークなど女性にとっても大きな意味あるのでリアルタイムに近い形で見える化を図ってほしい。

## センター長

今ご指摘があった通り三か年の事業になっている。計画を事前に建てての三か年の最終年なのでコロナ禍の中で計画が遅れつつあるが成功した部分とそうできなかった部分についてわかりやすく仕分けができるような整理をしていくのが今年度の目標になっている。市の施策の中で来年も継続していくのか一旦終了していくのかは実行計画の中で判断していくつもりだ。

## 委員

相談事業に興味がある。相談員調整会議等の内容について詳しく知りたい。相談件数だけでなく内容については開示できないのか。

## 事務局

相談関係については相談員調整会議、配偶者等からの暴力対策連絡協議会という付託の会議体があるが会議内容は公表していない。主に情報交換を行っている。

委員

その結果がアイレックの事業にどのように反映されるのか。

委員

DVに対しては多部署で連携するものであるので情報を共有することはとても大事だ。それをすることで相談者がどの部署に行っても同じ対応を取ることができる。そういう会議体を持つことは意義がある。

センター長

相談件数、数字だけの報告について意味があるのかということか。相談内容にどのような傾向があり、どのような対応をとったか、それによってアイレック相談もどのような方向性で推進するのかということを知りたいということなのか。手元に資料がないので改めて違う形でお示ししたい。時代時代によってDVの状況も変わってくる。配偶者等からの暴力対策連絡協議会はいわゆるケース会議でなく直近の状況を共有する形で続いている。事業報告の形も検討していきたい。

委員長

この話し合いの中で一回だけの開催では足りないということが浮き彫りになったと思う。予算や広報についても、まだまだ議論が残っている。

センター長

事業報告だけ見ってしまうと講座名と講師と参加人数のみのデータなので講座を開催する意義や趣旨の理解まで至らない。そういう意味でアイレックの活動に対する知名度が上がらないことにも繋がっている。そこまで考えながら進めないと庁内に対する説明も充分できない。例えばパートナーシップ制度についても何人かの委員の方の中で関心があるのご意見があったが単に制度を作るだけでなく広く市民の方の理解があって成り立つものだと考えている。センターとしても前向きに進めたい。また清瀬市男女平等推進条例子どものためのガイドブックの見直しについても時間をかけながら進めたい。アイレックの成り立ちも市民の要望から始まったものなので皆さんと一緒に考える。

委員

先程のセンター長の発言にもあったがパートナーシップ制度を考えて行くにあたって考えていることがある。条例化の検討を含めての学習会や当事者、支援者の交流の場としてカフェ等の開催が実現すれば良いと考えている。広く理解を進めるために市民へ向けての啓発を行いたい。

#### 委員

今年度の最後に、今年度は何を目標にして動いたのかの振り返りは必要だ。目標と、そこに至る議論のプロセスをどう組んでいくのかコーディネートして欲しい。それがあって回数の検討ではないか。

#### 事務局

とりあえず一回の委員会では結論が出ない。ガイドブックとパートナーシップ制度についての検討が必要だ。分科会または検討会を次回の委員会の前に行い報告、提案をする形で推進するのはいかがか。複数回、委員会を行うというイメージを共有して委員長、副委員長と事務局で調整したい。打ち合わせや検討を積み上げていくことが大切だ。

#### 委員

この委員会の場で昨年度の事業の報告と本年度の予定をきいたが意見を言うことによって再来年度の事業に反映するという事なのか。分科会の開催については別に考える必要があると思う。運営委員会では発案はするが詳細については違う場でつめるべきだ。この委員会での意見を反映しながら事業を進めていく。方針を決めていく場ではないのか。地方創生推進事業のコワーキングスペース運営はまさにタイムリーな事業である。ただ、事業の中身までわからないのでわかるように説明して欲しい。自分が委嘱された意味が知りたかった。

#### 委員長

運営委員会ではアイレックの事業のチェックを行うのではないか。開催も一回で終わらないためには。

#### センター長

ここだけの議論ではアイレックについて語り尽くせない状況だと思われる。運営委員会は提案する場であって実行部隊ではないと考えている。分科会という形で事業に関わることで良いのではないか。分科会からの報告を運営委員会で受ける形だ。これからの展開については委員長、副委員長と事務局で整理調整したい。内容を精査してから、それに応じた開催回数を設定したい。結果

としてどのような成果が出たのかを確認したい。目先のことだけでなく、しっかりとした目標があって、こういうふうなアイレックはあるということを示したい。